

ブラジル中央銀行が追加利下げを決定

～先行き追加緩和の可能性は排除せず～

◆9会合連続の利下げ

ブラジル中央銀行(以下BCB)は8月5日の金融政策決定会合において、全会一致で政策金利(翌日物国債レポ金利)を0.25%引き下げ、過去最低となる2.00%とすることを決定しました。利下げは、9会合連続となります【図1】。BCBは前回6月会合において小幅な追加緩和に含みを持たせていたこともあり、今会合では0.25%の利下げが市場のコンセンサスとなっていました。

◆先行きの追加緩和は排除せず

ブラジルの新型コロナの累積感染者数は8月に入り280万人を突破、新規感染者数も7月29日に過去最多を更新するなど、いまだ感染拡大が収まる状況にはありません【図2】。

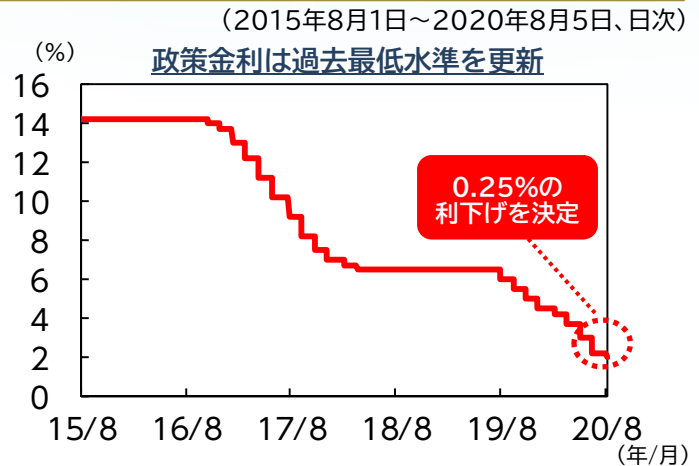
経済活動の再開が進む中、小売売上高や生産などが改善し、景気に明るさが見え始めているものの、先行きの景気・インフレ動向については不透明感が強い状況です。BCBは、当面は金融緩和の継続が必要であると認識しているものの、その余地は極めて限定的としており、さらなる金融緩和を行うかどうかについては先行きの財政政策やインフレ動向などを見極めたいと慎重な姿勢を示しています。

◆レアルは感染状況を睨みながらの展開に

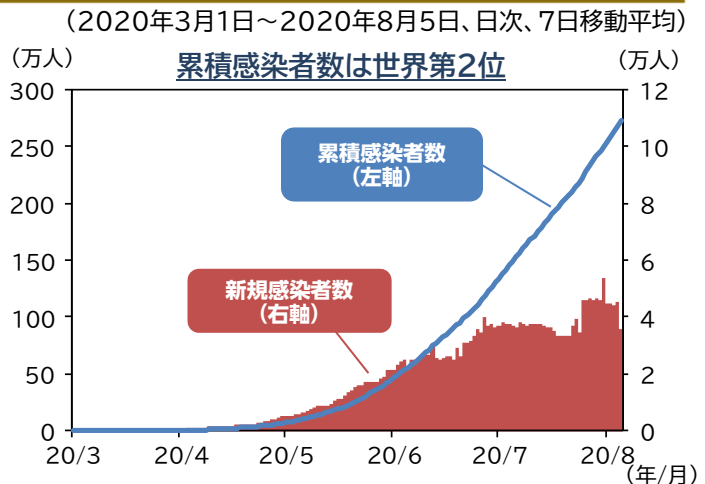
通貨レアルは、6月初旬には1米ドル=4.8レアル台に上昇したものの、その後は新型コロナ感染拡大を嫌気し、概ね1米ドル=5.1~5.4レアルのレンジでもみ合う展開となっています【図3】。

先行きのレアルの上昇には、やはり感染状況の落ち着きが必要です。ブラジル政府の閣僚8人に陽性反応が出るなど国内のコロナ感染は拡大しているものの、ボルソナロ大統領は、社会制限措置のさらなる緩和を進め、今後も経済活動を加速させるとみられます。これが感染拡大を長期化させ、再び全国的なロックダウンとなる可能性も残ることから、その動向については十分注視していく必要があります。

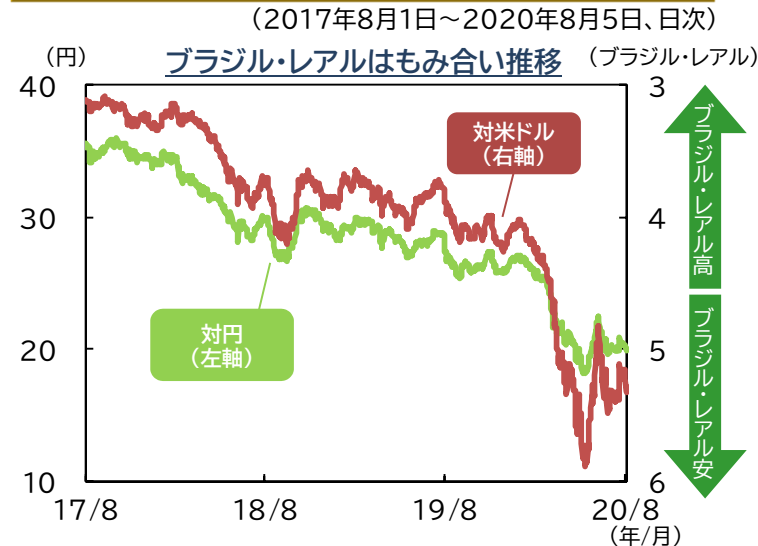
【図1】政策金利の推移



【図2】ブラジルのコロナ感染状況



【図3】ブラジル・レアル為替レートの推移



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。